支え合う社会へ

ポストコロナ社会と政治のあり方

『命と暮らしを守る』政権構想

２０２０年５月２９日
立憲民主党代表
衆議院議員　枝野　幸男

新型コロナウイルス感染症は何を突き付けたのか？

新自由主義的社会の脆弱さ

1. 生きるために不可欠なケア・サービスの脆弱さ

（医療・介護・保育・障がい者福祉）

2. 社会の危機が各個人の生活の危機に直結する脆弱さ

（非正規・不安定雇用/「ホームレス」構造/貯蓄ゼロ所帯etc.）

3. 目先の効率性重視が引き起こす社会経済構造の脆弱さ

（過度の一極集中・国際分業/中小企業の脆弱な経営基盤etc.）

新型コロナウイルス感染症は何を突き付けたのか？

「小さすぎる行政」の脆弱さ

1. 「小さな政府」の行き過ぎで、危機にマンパワーが不足する構造

2. 司令塔が不明確で、方針のぶれや縦割りの弊害を生む構造

3. 書面主義に拘泥し、迅速な情報集約・事務処理ができない構造

感染症から『命と暮らしを守る』中で明らかになった

ポストコロナ社会の理念

1. 自分を守ることが社会全体を守ることにつながる

支え合いの重要性

2. 自分の力だけでは自分の命と暮らしを守れない

自己責任論の限界

3. 危機が発生するリスクと
   社会を危機から守るコスト負担が偏在している

再分配の必要性

ポストコロナの社会･経済・政治の方向性

- 過度な自己責任論⇒

  『互いに支え合う社会』へ

- 目先の「効率性」に拘泥する経済⇒

  『未来志向の分散型経済』へ

- 行き過ぎた「小さな行政」と政府不信⇒

  『信頼できる機能する政府』へ